

第1回 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会会議録

■開催日時・場所・出席者

日 時:平成 29 年 6 月 20 日(火)午後2時 00 分から 4 時 09 分まで

場 所:鴨川市役所 4 階大会議室

出席者:以下のとおり

【出席委員】

| No. | 氏 名 | 備 考 |
|-----|--------|------------------------------|
| 1 | 鈴木 健史 | (一社)鴨川市観光協会 会長 |
| 2 | 徳山 英樹 | 鴨川市漁業協同組合 総務部長 |
| 3 | 久根崎 達郎 | 鴨川温泉旅館業協同組合 専務理事 |
| 4 | 水谷 好伸 | 鴨川ライフセービングクラブ 会長 |
| 5 | 中橋 健二 | 鴨川シーワールド 営業推進支配人 |
| 6 | 菅原 明善 | (一社)鴨川市青年会議所 副理事長 |
| 7 | 立野 健児 | 鴨川ライオンズクラブ若獅子支部 会長 |
| 8 | 村永 信吾 | 鴨川市健康づくり推進協議会 会長 |
| 9 | 原田 洋美 | NPO 法人鴨川ガイド協会 理事 |
| 10 | 渡辺 淳一 | 城西国際大学観光学部 教授 |
| 11 | 内山 達也 | 城西国際大学観光学部 准教授 |
| 12 | 鈴木 淳 | 学校法人文理開成学園文理開成高等学校 理事長・校長 |
| 13 | 橋詰 良子 | 地域おこし協力隊 |

| | | |
|----|-------|---------|
| 14 | 大内 洋 | 公募による市民 |
| 15 | 岡野 大和 | 公募による市民 |
| 16 | 川上 周一 | 公募による市民 |
| 17 | 庄司 修 | 公募による市民 |
| 18 | 林 良樹 | 公募による市民 |

【欠席委員】

| No. | 氏 名 | 備 考 |
|-----|--------|----------------------|
| 1 | 藤巻 武仁 | (一社)鴨川市観光協会 副会長 |
| 2 | 清水 宏 | 鴨川市商工会 観光サービス業部会長 |
| 3 | 福田 雄一郎 | 鴨川市商工会 前青年部長 |
| 4 | 川井 幹雄 | 鴨川サーフィンクラブ 会長 |

【オブザーバー】

| | | |
|---|-------|---------------|
| 1 | 吉田 良治 | 安房土木事務所 所長 |
|---|-------|---------------|

【市行政関係者】

| 所 属 ・ 職 | 氏 名 | 備 考 |
|------------------|-------|-----|
| 鴨川市長 | 亀田 郁夫 | |
| 鴨川市参事 | 岩田 知也 | 事務局 |
| 鴨川市観光課長 | 山口 昌宏 | 事務局 |
| 鴨川市観光課長補佐 | 小柴 則明 | 事務局 |
| 鴨川市観光課新たな観光づくり係長 | 鈴木 勝亮 | 事務局 |
| 鴨川市観光課観光係長 | 廣部 保幸 | 事務局 |
| 鴨川市観光課主事 | 岡野 拓末 | 事務局 |

| | | |
|-----------------|--------|-------------------|
| 鴨川市都市建設課長 | 野村 敏弘 | 海辺のまちづくりプロジェクトチーム |
| 鴨川市企画政策課主幹 | 大久保 孝雄 | 海辺のまちづくりプロジェクトチーム |
| 鴨川市農水商工課長補佐 | 小泉 満 | 海辺のまちづくりプロジェクトチーム |
| 鴨川市スポーツ振興課長補佐 | 鈴木 圭一郎 | 海辺のまちづくりプロジェクトチーム |
| 鴨川市環境課美しい鴨川推進係長 | 鈴木 英毅 | 海辺のまちづくりプロジェクトチーム |

【鴨川市C C R C構想等策定支援業務委託事業者】

有限責任監査法人トーマツ

香野剛、富田慎二、松矢明宏、田中亮伍、柳橋雅彦 計5名

■配布資料

- ・ 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 次第
- ・ 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 委員名簿
- ・ 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 席次表
- ・ 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 設置要綱
- ・ 資料 1 本日のアジェンダ・検討資料
- ・ 参考資料 1 第 2 回検討委員の皆様へのアンケート調査結果
- ・ 参考資料 2 平成 29 年度 地方創生推進交付金（第 1 回）事業変更様式

■会議要旨

1 開 会（午後 2 時 0 0 分）

2 市長あいさつ

（要旨）

本推進委員会では、鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくりに係る計画を総合的かつ計画的に推進していくために設置したものであり、昨年度の検討委員会委員に加え、新たに公募による市民 5 名を含めた総勢 22 名の推進委員としている。これからは市民の方々にご意見をいただきながら進めていきたい。

首都圏に近い中で、これほどの豊かな自然環境に恵まれていることにあり、そのうちの一つである、美しい海岸線を活かした取組として、「海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくり推進事業」に取り組んでいきたい。

事業を実施する主体としては、観光プラットフォームの推進体制の構築を図り、本市の観光客や消費額の増加につなげていきたい。観光プラットフォームについては、官民が連携した鴨川市観光プラットフォーム協議会と合同会社鴨川市観光プラットフォームがあるが、これらを構成している構成団体（商工会、観光協会、旅館組合等）の連携を一層強固にしていく必要がある。また、合同会社鴨川市観光プラットフォームに対する行政出資や人材支援等の抜本的な機能強化を図っていきたい。将来的には市内のイベント等を一元的な体制により効果的・効率的に実施していける体制を検討していく。

まずは、前原横渚海岸を対象としているが、その効果を本市全体に波及させ、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりにつなげていきたい。そして、本推進委員会は観光を切り口としたまちづくりではあるが、医療や福祉等の地域包括ケアについても関連させ、まちづくり全体を視野に入れた協議を進めていきたい。

3 委員紹介（自己紹介）

委員各自の自己紹介。

加えて、鴨川市総合戦略推進本部の海辺のまちづくりプロジェクトのメンバー及び事務局の自己紹介。

4 役員選出

事務局の進行により、

委員長 城西国際大学観光学部 渡辺淳一委員

副委員長 鴨川市観光協会長 鈴木健史委員

を選出。

5 議事

議長は、渡辺淳一委員長。

「鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 設置要綱」に基づき、推進委員会の目的や組織体制等について小柴課長補佐が説明。

（1）推進委員会での協議事項について

資料1に基づき、トーマツ柳橋から昨年度の事業概要について説明。

また、グループワークの議題、流れについて説明。

（テーマ）

- 1 鴨川市内には、「良質な日常の提供」に資するどのようなリソースがあるでしょうか
- 2 南房総には「良質な日常の提供」に資するどのようなリソースがあるでしょうか
- 3 海岸の拠点と、それら広域のリソースを連携させることで、どのようなサービス提供・ブランディング等が実現できるでしょうか

（グループワークの協議結果 要旨）

■グループA

テーマ①

- ・ 海と山があり、首都圏からも良好なアクセスとなっている。
- ・ 医療機関も充実しており、安心な生活環境が確保されている。
- ・ 農業を志向する方には大手企業のスポーツマンが多いことから、アグリカルチャーとスポーツを掛け合わせることができないか。そして、それを実現する素材が鴨川市に多くある。
- ・ 「ヘルシーはかっこいい」等のライフスタイルこそが商品化になる。そのライフスタイルを実現していけるのが鴨川市であると考え。その際には、建築的なデザインだけでなく、ストラクチャーをデザインする力を組み合わせていくことが重要と考える。

テーマ②・③

- ・ 木更津市がオーガニックタウン宣言をしており、有機的に様々な資源をつなげている。木更津市と連携し、健康なまち

としてのブランディングができる。

■グループB

テーマ①

- ・ 海と山のバランスが良い。風景としてのバランス以外に、海産物等の食のバランスが良い。
- ・ 人が少なく、花火等を市内イベントも十分に楽しめる環境である。
- ・ 医療についても安心感につながるので貴重な資源となっている。
- ・ サーフィンができるという魅力はあるが、消費効果は期待できないと考える。

テーマ②

- ・ 首都圏へのアクセスは鴨川市よりも良い。
- ・ 夕日がきれいであり、富士山とセットで見ることができるものの魅力である。

テーマ③

- ・ 一つ目は、観光サービスとしてつなげていく視点である。朝日、温泉、海&山、医療等の多様な魅力資源が揃っているので、観光客等が自由に組み合わせて楽しめるようにする。一方で、宿泊施設の料金が高価であり、運営スタイルも古い点が懸念事項である。
- ・ 二つ目は、都心で暮らしているアクティブシニアのもう一つの居場所という視点である。平日は東京で働き、週末は鴨川で遊ぶといったスタイルである。別荘地としては、軽井沢にブランド力で敵わないが、サーフィン愛好者をターゲットとして、世界一の朝ごはん等の付加価値を付けることで差別化ができると考える。保養所や民泊の活用を今後検討していくことが必要である。

■グループC

テーマ①

- ・ 鴨川市に来て良質な日常を提供するというよりは、鴨川市で良質な非日常を味わうことで普段の日常生活を見直すことができ、その後の良質な日常生活につながると考える。

テーマ②

- ・ 安房には道の駅が多く、自転車による周遊コースの形成が可能である。

テーマ③

- ・ 様々な魅力資源があってもつながらなければ意味がない。例えば、プラットフォームに様々なコンテンツがあったとしても、使い勝手が悪ければ活用されなく、団体等が一定の標準化された仕組みの中で取り組みを進めていくことが重要であると考え。
- ・ 医療分野では、急性期の病院とクリニックや介護施設をつないでいく仕組みとして「I H N」という考えがある。それと同じで、多様なアクティブコンテンツが一元管理されており、その中でホテル予約や移動予約まで一連の動作で完結できるようにすることで、多様なサービスの連結やそれによる波及効果が期待できると考える。
- ・ 道の駅にて、海産物が味わえ、露天風呂を楽しめるようにするのが良い。

- ・ 鴨川市の海は魅力的ではあるが、観光客にどのように行けば良いか質問を受けることがあるため、わかりやすくたどり着ける環境整備が必要である。

■グループD

テーマ①

- ・ 既に色々と意見があがっているリソースしかないのではないかと考える。問題はそれらリソースがつながっていない、ストーリーになっていないことだと考える。

テーマ②

- ・ 南房総では、サイクリングツーリズムが可能であると考え。サイクルツーリズムとして、しまなみ海道と比較すると南房総のサイクリング環境は疲れ難く初心者向けが良い。
- ・ 海岸を活かして、マリンスポーツ・ビーチスポーツは欠かせない資源であると考え。その中で、ビーチテニスというスポーツは初心者でも楽しめ、幅広い世代の方々が楽しめる。また、ビーチスポーツはケガもしにくい点が高く、シニア世代や子ども達が安心して楽しめる。と考える。

テーマ③

- ・ 海岸沿いをマリンアクティビティのモールとして整備していくのが良い。鴨川市の入り口は、国道 128 号線となっているが、海側にゲートをつくり海岸沿いに賑わいの動線をつくるのが良いと考える。
- ・ また、体験センターではそれら海岸と里山と拠点にするのが良いと考える。
- ・ これら取り組みを進める上では、地域の人々が誇りを持ち、賛同・参画してもらうことが大事である。

■グループE

テーマ①

- ・ 自然環境では、海岸（砂浜）、海、花（ゆり）等があげられ、その景観は都会にはない魅力資源である。
- ・ 食資源としては、鮮魚や地魚、長狭米があげられる。
- ・ スポーツ・レジャーとして、海の水質や波の質が良いこと。また、フラダンスは 100 万人の競技人口であり、鴨川市にはそれを楽しめる環境であると考え。

テーマ②

- ・ 道の駅が充実している。

テーマ③

- ・ スポーツをはじめとしたレジャーを美しい自然環境の中で行い、おいしい食事を食べながら素敵な宿に泊まるプランが考えられる。
- ・ ターゲットとしては、首都圏等から足を運べ、時間とお金がある年齢層の方にするのが良いと考える。

■グループ市役所職員

テーマ①

- ・ 豊かな農水産物、農村漁村風景がある。
- ・ 雪が降らないため、年間を通じてスポーツを楽しめる環境である。
- ・ 医療施設が充実している。
- ・ 上記の魅力資源のP R等を行う観光プラットフォーム協議会についても資源になると考える。

テーマ②

- ・ 海に囲まれた中で、日の出・日の入りが見える。
- ・ 起伏があり、富士山が見える。
- ・ 道の駅が全国的に多く、魅力資源のP R拠点等として活用ができる。

テーマ③

- ・ 自転車を使った周遊コースができる。
- ・ サーフィンについては、一宮町がオリンピック大会会場にあがったが、鴨川市は全国大会の初会場であることや、「波乗りジャパン（日本代表）」の初合宿地ということもあり、ポテンシャルを持っている。サーフィンの知名度を活かすためにも、海岸近くの良質な非日常を提供する場所をつくっていくことが重要であると考えます。

(2) 今後のスケジュール等について

特になし。

(3) その他

次回会議は8月に入ってから調整する旨を説明。

事務局から会議案内通知を送付する。

今後の通知等連絡事項は、Eメールにて行う予定である。

議事録作成後に、菅原委員、村永委員に内容確認と署名を依頼する。

6 閉会

午後4時09分

平成29年6月22日

菅原 明善

村永 信吾